

学校概要

| | | | | |
|----------------------|----------|---------------|----------|---------------|
| 創立 146 周年 | 学校長 宮生和郎 | 副校長 佐藤朗子 | 学期 2 学期制 | 児童・生徒数 1026 人 |
| 学級数 一般級: 30 個別支援級: 5 | | 主な関係校: 浦島丘中学校 | | |

学校教育目標

- 自分が好き 友だちが好き 学校が好き まちが好き
- 自分から進んで問題を見つけ、考え、判断して取り組み、自分の見方や考え方を深めていく子どもを育てます。(知)
 - 互いに認め合い、支え合いながら、安心して個性を發揮し、伸ばし高め合える子どもを育てます。(徳)
 - 自分の健康に関心をもち、進んで健康保持に努めるとともに、自らの体力を向上させようと取り組む子どもを育てます。(体)
 - 自分が生活する地域「まち」について理解を深め、関心を高めながら積極的に地域「まち」と繋がっていく子どもを育てます。(公)
 - 多様な文化や伝統に積極的に関わり、それぞれのよさを受け入れ、視野を広げ、進んで行動・実践していく子どもを育てます。(開)

学校の特徴

本校は、旧東海道を学区の中に残す歴史ある学校であり、本年度創立146周年を迎える。新子安駅近くに在り、国道1号線と15号線に挟まれた交通量の多い場所に位置しているが、校地内には中庭・池、多くの花壇があり、多くの緑・草花と水のある学校環境を有している。また20を数える町内会・自治会は学校に対して惜みない支援をしてくれている。伝統的に子どもたちは音楽、特に歌うことが好きで、学校には日々子どもたちのきれいな歌声が響いている。毎年ウインターコンサート(合唱祭)を行っており、児童はもちろん保護者、地域の方々もたいへん楽しみにしている。親子代々子安小学校を卒業した家庭の児童が多いが、新しく建てられた高層住宅等に転居してきた家庭の児童たちも増えてきており、本年度新入生189名を迎え4月1日現在全校児童数1038名、今後も児童数の増加が予想される。平成30年4月1日より校舎を移転し今後の児童増に対応可能な校舎となった。(H30.3月 一部修正)

学校経営中期取組目標

- 学校教育目標を実現するために「活力と魅力にあふれた子安小学校づくり」を目指します。
- 職員の同僚性・協働性が高まり、職員の協力支援体制・活気にあふれた学校運営組織を確立します。
 - 子ども一人ひとりが、安心して気持ちよく生活・学習できる環境がつくられ、楽しい学校生活を営めるようにします。
 - 子ども一人ひとりが、学習の楽しさや喜びを実感できる授業づくりが推進され、子どもの学力向上を目指します。
 - 家庭・地域・小中一貫教育推進ブロックと連携・協働し、社会の要請や信頼に応えた学校づくりを推進します。

小中一貫教育の取組

| | | |
|-------------|--|---------------------|
| 浦島丘中 | ブロック | 浦島丘中学校・神奈川小学校・浦島小学校 |
| 9年間で育てる子ども像 | 「共につくる！共に学ぶ！共に高まる！浦中ブロック」をテーマに、地域に根ざし、主体的によりよく生きようとする子ども、他と共生し、プロセスを大切にす心豊かな人となる子どもを育てます。 | |
| 自校の具体的取組 | 教職員の共通理解のもと、一人ひとりの子どもが安心して、生き生きと活動する学級づくりに取り組んでいます。また、小中教職員及び児童生徒の交流・連携・協働により、子どもたちが安心して、中学校に進学できるようにします。・6月・・・中学校の授業を3小学校が参観、授業後に研究協議会を実施。・9月・・・3小学校にて教科を分散して授業公開。ブロック内の小中学校職員が参観、授業後に研究協議会を実施。・10月・・・授業生徒交流日。6年生が中学校を訪問、授業やクラブを体験。 | |

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|------------------|--|--|
| 確かな学力 | ○ねらいを明確にした学習展開を工夫し、子どもが自ら問題を解決する力や書くことを中心に豊かに表現する力を系統立てて育てる。 | ①全教員が重点授業研究を通じて授業づくりに努め、子どもの主体的な学習を実現させるとともに、主として国語の授業を中心に子どもの書く力の系統性を重視してその力を高めていくようにする。 ②生活科や「横浜の時間」を中心に地域や社会と関わり合う時間を設定して、問題解決的な学習を行いながら子どもの表現力を高めていくようにする。 |
| 豊かな心の育成 | ○道徳の時間のほか、各教科の授業を含む様々な教育活動において、物事の善悪を判断し、行動する力や自他ともに認め合い、大切にす心を育てる。 | ①道徳の時間や各教科の授業において、物事の善悪や自他を思いやる心を育てるようにする。②年間を通じて全クラスが1回以上道徳の授業参観を行う。③人権月間に限らず、思いやりの心やたくましく生きることの大切さを学ぶ機会を各学年で設けていく。④「挨拶運動」を全校で実施し、進んで挨拶をする態度を育て、いじめの起きにくい風土をつくる。 |
| 健やかな体 | ○一校一実践運動を行い、目標に向かって挑戦する楽しさや仲間と協力したり競い合ったりすることを通して、子どもたちの体力向上を図る。 | ①「長縄集会」や「縄跳び運動」など年間を通じて実践する取組を通じて体を動かすことの楽しさや能力を高めることの喜びを学ぶ機会を設定する。②「長縄中休み」を設定して、全校が一同に長縄に親しむ機会を継続的に実践する。③学校保健委員会を年に2回開き、自分の体の健康について学び、めあてに向かって努力することの大切さを学ぶようにする。 |
| 児童指導体制・特別支援教育の充実 | ○いじめ等問題行動の早期発見・対応に努め、子どもの生活や行動の安定を図る。 ○児童の特性を踏まえた指導・支援を全教職員で共有し、だれもがわかる指導を行う。 | ①児童支援専任を中心とした組織的な指導・支援体制を整え、教職員が連携していじめ等問題行動の早期発見と対応を行う。②「子安小のきまり(子ども編・教師編)」をもとにして誰にとっても分かりやすく、明確な指導を行うことで子どもが気持ちよく、落ち着いた学校生活を送ることができるように支援する。 |
| 地域との協働 | ○地域とともにつくる新しい子安小学校 ○子どもの安心・安全を第一に考える子安ガーディアンズ、スクールゾーン対策 | ①校舎移転が完了し、新しい場所での登下校の安全面においては地域や保護者の協力がより必要になるため、情報の発信、共有に努めて共に歩む学校を目指していく。②学校教育説明会・報告会、学校づくり懇話会などの機会を通して、学校経営方針を地域や保護者に分かりやすく説明・報告する。 |
| キャリア教育 | ○まち・地域を愛し、それを生かすことのできる子どもを育てる。 ○豊かな体験を通して子どもの社会性やコミュニケーション能力を高める。 | ①地域にある工場や企業、人材を活用して、見学や体験など地域と連携した授業づくりを行う。②学校行事や学年行事などを通して、自己を見つめ将来の夢や希望をもつ機会を設定する。③地域の大人やプロフェッショナルなど、優れた人材と触れ合う機会を設け、プログラミング教育の先行実施のほか、新学習指導要領を見越した取組を実践していく。 |
| 情操教育 | ○ウインターコンサートや音楽集会など合唱や合奏および、読書習慣などを通して、子どもたちの感情・情緒を育てる。 | ①年間を通じて、音楽に親しめるよう「音楽朝会」を月1回実施して継続的に合唱する機会を設ける。②「ウインターコンサート」を通じて仲間と共に合唱を行うことの楽しさ、協力して合奏することの喜びを感じられるようにする。③子どもが読書習慣を身に付けられるように、週3回の朝学習のうち1日を全校読書日と定めるほか、読書習慣身に付けられるように働きかけを行っていく。 |
| いじめの対応 | ○いじめが起らない風土づくりに努めるとともに、いじめを察知した場合には組織的に対応にあたる。 | ①子どもの発達段階に応じていじめを防止する取組を実践する。②いじめはどのクラスにもどの子にも起こると意識のもと、未然防止と起きた時に早期対応するよう職員、関係機関と連携をする。③相談窓口の明示、定期的なアンケート、個別の面談を実施して状況の把握に努める。 |
| 人材育成・組織運営 | ○校内研修を計画的に実施して、子どもたちの学習や生活に対する指導力や危機管理対応能力を高める。 | ①校内研修の計画的な実施によって、子どもの学習や生活に対する指導力や危機管理対応能力など、今学校に求められる教職員の資質・能力の育成に努める。②校内初任者研修及びメンターチーム研修の充実、経験者層のメンターチームへの適切な参画によって、若手教職員が指導力・実践力を高められるようにする。 |